

# 令和2年度学校自己評価システムシート (県立羽生第一高等学校)

目指す学校像	地域の期待に応えるため「自主・自律 求めて強き風に立つ」の精神のもと、積極的に課題解決に挑戦する生徒を育成する。
--------	--

重点目標	1 基礎学力に裏打ちされた学力向上の結果、高いレベルの進路実現を図る。 2 保護者と連携して、地域の模範となるような規範意識を醸成する。 3 活気満ちた生徒の姿と特色ある教育活動を発信し、開かれた学校づくりを推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(2月1日現在)		
年度	目標	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	多くの生徒が羽一手帳を利用して時間管理をしているが家庭学習時間が減少傾向にある。  卒業時にほとんどの生徒の進路は決定しているが、各学年適時適切な指導を行うことにより、より高いレベルの進路実現を目指す。	生徒自らが学力の向上とより高いレベルの目標設定をする。	①学びの基礎診断や模試結果を活用した個に応じた進路指導を充実させる。 ②羽一手帳に学習計画やメモを書かせ、教員がこまめに確認する。 ③課題や予習復習を前提とした授業を実施する。 ④学びの基礎診断を用い、生徒の学力分析を行う。	①生徒アンケート「自ら高いレベルの目標を設定した」70%以上。 ①保護者アンケート進路指導に関する満足度65%以上。 ①面接指導の生徒アンケート評価 ②③生徒アンケート家庭学習1時間以上50%。 ④学びの基礎診断の結果の向上 ①②③④国公立合格者5名。	入試制度変更や新型コロナウイルス禍の影響もあり安全志向が強く、最後まで粘り強く挑戦する生徒は減ってきている。 ①生徒アンケート「希望する進路に向かって頑張っている」79.9%、保護者アンケート4項目の進路指導に対する満足度平均56.4% ②③学習計画や日々の学習時間の記録ができる生徒は伸びている。生徒アンケート「家庭学習時間1時間程度以上」52.8% ④学びの基礎診断の結果から第1回と第2回を比較すると1年生、2年共に最下位層は減少傾向であるが上位層が伸ばし切れていない。	B	臨時休業中における動画配信やタブレット・プロジェクト等ICTを活用するといった授業改善は進んでいる。入試制度変更や新型コロナウイルス禍の影響等もあり安全志向で、一般受験で進学を目指す生徒は減っている。1年次からの学校全体の取組が必要である。 また、毎年、家庭学習時間を評価指標にしており、50%以上の目標はクリアしたが、一方で「30分未満」「していない」と回答する生徒も約30%おり、授業以外の学習習慣定着への新しい工夫も必要である。
		高大接続改革及び新学習指導要領に対応するための授業改善を引き続き行う。	①主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行う。 ②ICTを活用した授業を行う。 ③自己肯定力、傾聴力、分析力、思考力、発信力、想像力、創造力、行動力を目的とした教育活動を行う。	①③生徒アンケートの結果 ②③教員のICT活用能力等の実態、「ほとんどできない」0%、「あまりできない」5% ②eラーニングの生徒活用率60%	ICTを活用した授業を中心に高大接続改革及び学習指導要領を意識した授業改善は進みつつある。 ①③生徒アンケート主体的に対話的な授業を20回以上受けた33.0% ②臨時休業等にスタディサプリを活用した指導もあり、ほとんどの生徒がeラーニングを活用しているが、授業外で積極的に活用している割合は21% ②今年度の教員のICT活用能力調査は現段階では実施していない。	B	
2	服装・行動について生徒の意識も高まりつつあるが、地域住民との間に意識の差がみられる。  学習環境を日常的に整える。	日常的に、地域の模範となる「一高規準の規範意識」を生徒に身につけさせる。	①整容指導・挨拶指導を全教職員で当たり、生徒の一高規準の規範意識を向上させる。 ②清掃・美化活動を全教職員で当たる。特にロッカーの上や中、机の中の整頓を行う。	①制服を一高規準で着用している生徒アンケートの結果100% ①教員に指導される生徒2学期0人。 ①生徒同士で挨拶できるか。 ①来校した方に挨拶できるか。 ①地域の方に挨拶できるか。 ①授業開始・終了の挨拶はできるか。 ②教室は整頓されているか。 ②トイレ・廊下・敷地内はきれいか。 ②地域の美化活動を行ったか。	服装・行動について全教職員で指導してきた成果もあり、生徒の自己評価も高い。 ①生徒アンケート「制服をきちんと着用している」96.2%。教員に指導される生徒は0人にならなかった。 ②生徒アンケート「挨拶ができています」91% ③おおむね教室内は、常に整頓されている。学校全体では地域の美化活動はできなかった。	A	服装・行動について意識だけでなく状況もよくなってきているが、真に「地域の規範」となるように継続して指導していく必要がある。  新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、地域の美化活動等にも取り組むようにしていきたい。
		保護者・地域・小中学校等との連携と積極的な情報発信をする。	①HPを更新する。 ②地域へのボランティア参加を勧める。 ③小・中学校との連携を推進する。 ④多様な方法で情報発信する。	①各部活動のHPを年間6回以上更新する。 ②ボランティア参加生徒数が昨年より増加したか。 ③10件以上の交流を実施する。 ④情報発信の方法が増えたか	新型コロナウイルス禍の影響もあり交流関係はほとんど実施できず、部活動の状況もなかなかHPにアップすることが難しかった。 ①5回以上更新は運動部12部中3部、文化部13部中0部 ②ボランティア参加生徒数26名(昨年35名) ②献血を年2回(7・12月)実施して、108名協力 ③新型コロナウイルス感染予防の観点からほぼ実施できず。 ④情報発信がHP・学年通信中心となっていました。	B	保護者や中学生へのHPによる情報発信の重要性を説明し、部活動HPの更新を来年度の重点とする。
3	保護者や地域の中学生への情報発信を積極的に行う。部活動HPの更新を活性化する。						・オリパラ教育など取り組む、夏・冬の公開講座の実施などそれらも活用して地域へのアピール(市報への情報提供など)するとよいと考える。 ・生徒として地域との関係を築けている実感がない。積極的に中高・高大連携も進めていければと思う。

学校関係者評価	
実施日	令和3年2月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・新型コロナ禍の影響もあったと思うが、よくここまで対応していると感じる。リアルタイムのリモート授業など準備を引き続き進めてほしい。 ・万が一リモート授業になった際、質問等で先生と生徒が直接やり取りできる方法・場を検討してほしい。 ・先生方は熱心であるので、生徒も進学に向けて家庭学習時間を増やすなど頑張してほしい。 ・将来のことについてイメージしているものをどのように明確にしてよいのかわからず、主体的な学習につながらない面もあるのではないかと。 ・ITの発展により活字離れが加速している。本を読むことで学力向上にもつながると考えるので図書館を活用してほしい。	
・正門周辺の交通事情も変わっているので引き続き安全指導をしっかりお願いしたい。 ・整容指導等については、必要性やあるべき姿を具体的に示すことで、より一高生として誇れるようになると考える。 ・地域からも羽一高生はよい評価をされている。	
・オリパラ教育など取り組む、夏・冬の公開講座の実施などそれらも活用して地域へのアピール(市報への情報提供など)するとよいと考える。 ・生徒として地域との関係を築けている実感がない。積極的に中高・高大連携も進めていければと思う。	